

## 令和7年度第1回物部川清流保全推進協議会幹事会 議事要旨

開催日：令和7年8月6日（水）14:00～15:45

場 所：南国市役所 4階 大会議室

出席者：【幹事】21名（代理出席含む）、【オブザーバー】1名、【事務局】自然共生課3名、  
その他随行等13名

### 1 議事

#### （1）令和7年度の取組について（協議）

事務局から、資料に基づき説明

意見交換（別紙「議事（1）における主な意見」のとおり）

#### （2）その他（情報共有・意見交換）

行政機関から、説明（別紙「議事（2）における主な情報共有内容」のとおり）

意見交換（別紙「議事（2）に対する主な意見」のとおり）

### 2 その他

#### 情報提供

アユの状況について

物部川漁業協同組合 松浦組合長から、資料に基づき説明

### 3 資料

資料1 令和6年度物部川清流保全推進協議会 活動実績

資料2 令和7年度物部川清流保全推進協議会 取組計画（案）

資料3 令和5～6年度総会での決定事項及び今後の対応等一覧

資料4 令和7年度ワーキンググループの概要

資料5 物部川清流保全への取組内容及び指標（環境ものさし）案 一覧

資料6 川本来の姿を取り戻すために（案）

その他資料

### 4 議事結果（今後の取組の方向性等）

（1）議事（1）の内容について、了承

（2）議事（2）の中で、各行政機関における取組を共有。

いただいたご意見等は、今後の検討や取組につなげていくこととなった。

(別紙)

【議事（1）における主な意見】

幹事	○県公営企業局が測定している濁度データの数値に異常値らしき値が出ているなど、安定していないように感じる。また、直接アユに影響を与える、下流の深淵辺りの水温と濁度のデータを観測して、ホームページなどでリアルタイムで見られるように検討していただきたい。
幹事	●濁度データについては、（観測機器の状態を含めて）状況を確認する。
幹事	●深淵での濁度と水温の連続観測については今後検討させていただく。

【議事（2）における主な情報共有内容】

県木材増産 推進課	○森林・林業分野の取組について ・令和6年度は補助事業で、再造林、下刈り、除間伐、作業道など、3億円程度の森林整備事業を実施した。 ・再造林については、令和5年度は県内で294ha（うち3市21ha）、令和6年度は公表前だが、県内で345ha（うち3市30ha）実施されている。 ・治山事業については、令和6年度に復旧治山で2箇所を測量を行い、令和7年度には、令和6年度に測量を行った2箇所を含めた3箇所の事業の実施を予定している。 ・令和6年度の森林環境学習は、令和5年度に対して100名程度多くの小中学生に参加していただいた。 ・「皆伐と更新に関する指針」について、法律の変化なども踏まえて、令和7年3月に改訂した。 ・令和7年6月に再造林を実施する森林所有者の負担軽減に向けた、再造林基金を創設した。基金の整備などにより、物部川流域を含めた、県内の再造林率の向上に繋がるものとする。
県環境農業 推進課	○農業分野の取組について ・濁水対策に向けて浅水代かきの周知を毎年継続している。 ・浅水代かき実演会についても継続しており、参加者は確実に技術を習得している傾向があるが、今後どのように拡大していくかについて、代かき濁水対策WGでも意見を伺いながら検討していきたい。 ・プラスチックごみ対策として、コーティング肥料の軽減に向けて、令和5年度から、家畜ふん堆肥や緑肥等の代替資料を使った実証等を進めている。いずれの実証等でも収量が減るなどの影響は確認されていないため、今後は、良い事例として普及させていきたい。 ・JAでは、従前のコーティング肥料を使わない方向にシフトしていこうと取り組んでいるところ。 ・実証等も踏まえて、プラスチックごみの軽減に努めていきたい。
県河川課	○永瀬ダムでの取組について ・令和6年度から、7月1日から9月30日の洪水期間に、洪水調整に支障を及ぼ

	<p>さない範囲で発電量を増やす取組として水位運用の高度化を試行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度は、降雨状況を確認しながら、制限水位以上の洪水調整容量に流水を貯留し、発電や下流の環境保全維持流量として活用する取組を行いたいと考えている。これにより、発電量の増加だけでなく、夏場の下流の水温上昇に対しても一定の効果を期待している。</li> <li>令和11年度まで5年間延長された、緊急浚渫推進事業債を活用して、永瀬ダムの堆積土砂の浚渫を継続して実施したいと考える。令和7年度は、昨年度よりも水位を低下させず、10月から土砂の搬出を行いたいと考える。浚渫土は物部川下流域への置き土や洗掘箇所への利用、東部自動車道の盛土材としての利用など、公共事業に活用したいと考える。また、物部川流域の海岸部への養浜についても協議を進めていきたい。</li> </ul>
--	---

【議事（2）に対する主な意見等】

幹事	<p>1 森林整備について</p> <p>○再造林面積について、山にはシカがいて植生が食べられたりということもあると思うが、植えた後の追跡調査は行っているか。</p>
幹事	<p>●追跡調査はしていないが、基本的に県の補助事業のため、原則的には山に戻るくらいの状態になるように指導しており、植えたところが全滅することはないと考えている。物部地域ではシカ被害対策のため、木に保護柵を巻いているところも多い。稚樹は頂点を食べられなければ何とか大きくなるし、大きくなった木もシカによる皮剥ぎはあるが、幹の周りを360度食べられることは少なく、傷はできても木は残っていく。</p>
幹事	<p>○森林組合に話を聞くと、職員が減り、さらに高齢化しているとのことであった。再造林基金などお金による支援も大事かもしれないが、いかに林業に関わる人を増やしていくかということを考えていけないと思う。</p>
幹事	<p>●一次産業に従事される担い手の確保が難しい中で、特に植える作業は労働環境が厳しいところがある。労働に見合う賃金かということも重要であるため、再造林基金により事業者に一定の資金を還元することで、少しでも労働対価を上げて、人材を確保していきたいと考えている。また、再造林について、これまでは3,000本/haくらいを植えてきたところを、今は大体2,000本/ha以下の本数にして、同じ人数でも面積を1.2倍、1.3倍に増やしていくことにも取り組んでいる。いろいろな施策を組み合わせて対応していきたい。</p>
幹事	<p>○ドローンで苗木を運ぶ方法もあると思うが、森林事業体に対してドローン導入の補助をするということは考えているか。</p>
幹事	<p>●県内には15キロくらいの苗木を吊ることができるドローンが20数台あり、そのほとんどが県の補助によって導入されたものである。再造林を実施している事業者は、すでにドローンを導入して、少しでも労働負担がかからないようにしているところだが、ドローンは一度に多くの量を運ぶことができ、少しの面積であれば1日で運べてしまうため、年間で1週間も使われていないという状況もあり、一定導入されて以降は数が伸びないという状況になっている。</p>

幹事	○保持林業を指導（推奨）するような考えはあるか。溪畔林も含めて、減災や生物多様性という視点から、啓発していただきたい。
幹事	●保持林業に適した事業地が少ないとは思いますが、大きい広葉樹が残っていれば、引き続き残していただくことをしていただければ、生物多様性の面でも非常に効果が高いと言われているので、指導とはいかないが、所有者の考えでいろいろなパターンを実践いただければと思う。啓発していくことについては、検討させていただく。
幹事	2 森林作業道について ○森林作業道作設指針は、個人が作業道を作る際にも対象になる指針か。作業道が崩れることが、濁水の原因になっている場合があるが、個人に対しては我々も言いづらい部分がある。行政として指導をしていただくことをお願いしたい。
幹事	●森林作業道作設指針は個人が作業道を作る場合も守っていただきたい事項として示している。個人が作る道を行政が把握することは難しいところもあるが、補助を行っている作業道は指針に基づいて作ったものに限り支援をしている。また、木を伐る際には市町村に伐採の届出を提出する必要があるため、その際に市町村からも指導していただけるようお願いしているところ。
幹事	○作業道の作設箇所は、原則傾斜 35° 未満となっているが、35° でもかなり急な傾斜だと思う。崩れる原因になるのではないか。
幹事	●地質や雨が降った時に水がどこに集まるかをしっかりと把握した上で、転圧をしっかりとした強固な作業道を作れば、35° 以上の急なところでも崩れていない作業道が一般的に見られる。崩れている作業道は、少し乱暴に作った道が多く、横断工を作ることや転圧をしっかりとしておくなど、基本的なことを行えば問題ないと考えている。
幹事	○以前は、林業事務所に先機関があって、事業者にも密接に指導ができていたものが、今は集中化によって、指針はあってもそれを指導できていないのではないか。
幹事	●確かに、以前は林業事務所に先機関があり、事業者とも密接な関係でお話をさせていただいたり、指導をしたりということがあった。事業者とやりとりする機会が減ってきたこともあり、県では数年前から事業者担当制という、事業者ごとに担当職員を決めて、訪問するなどしてお話や問題点を聞く取組を始めた。そういった中で、指導もさせていただいて、しっかりと作業道づくりにもつなげていきたい。
幹事	3 農薬の生物への影響について ○ジャンボタニシ対策で、恐らくかなり強い農薬を使っていて、物部川流域でジャンボタニシも見なくなったが、その代わりに野鳥などの餌もなくなり、野鳥が集まらなくなった。また、以前は下流の水田にギンヤンマがたくさんいたが、今年は見ていない。ジャンボタニシの問題を克服しているのであれば、農薬を少し配慮していただければ、多様性が戻ってくるのではないかと思う。
幹事	●農薬と野鳥や、農薬とギンヤンマの直接的な関係は分からないところがあるが、県としては農薬を減らしていきたい思いがある。物部地域でも減農薬米の取組等

	<p>が拡大し始めてきている。すぐに多様性が戻るということは難しいかもしれないが、農薬をできるだけ減らしていく方向性は強く打ち出して取り組んでいきたいと考えている。</p>
--	--

【その他情報共有内容・意見】

<p>物部川漁業 協同組合</p>	<p><b>【情報共有】</b></p> <p>○アユの状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月中旬のアユ釣り解禁以降、5月下旬に少し濁って、それから6月10日くらいからの濁りが長く続いた。解禁直後の濁りは何とかしのいだが、6月の出水に伴う濁りで遡上してきたアユの半数がいなくなった。</li> <li>・漁協として、濁り以上に気になるのは水温の上昇。今年は例年より早く、6月に梅雨が明け、水量が減ったために7月10日頃に雨が降る前までは、最高水温が28℃を超えていた。7月中旬のちょっとした雨がなければ、終わっていたかもしれない。</li> <li>・最低水温は22℃～23℃だが、最高水温は28℃くらいになる。8月3日には深淵の最高水温が29℃になっており、これ以上水量が減ると30℃のデッドラインを超えるのではないかと思う。</li> <li>・統合堰から下流に向かうに従って、徐々に水温が上がり、深淵床止で最高水温になり、それより下流は伏流水により、少し水温が下がる。今までのデータ観測でも深淵が最高水温になる。</li> <li>・今年はアユの遡上が例年並みで、去年よりかなり多く、期待をしていたところだが、梅雨明け後には半減してしまった。漁獲による減耗は2万匹～3万匹で、20数万匹減ったうちのわずか1割程度。それ以外は、濁水とともに消えたということになる。</li> <li>・春から夏の減耗率は、普通の河川であれば2割～3割という中で、物部川は5割を超える減耗が昨年、今年と続くという異常事態になっている。</li> <li>・今年は、統合堰より下流の瀬には、まずまずアユがいるが、統合堰の上流には全然いない。これは例年のことだが、現状の堰の魚道が十分に機能していない。現在、香南市が堰の改修に併せて、魚道の見直しを行っていただいているので、来年、再来年には統合堰上流の生息密度が1尾/m<sup>2</sup>くらいになることを期待している。</li> <li>・嬉しい点としては、深淵から下流のアユの生息状況。近年は漁場が荒廃して、低いレベルだったが、今年は深淵上流と遜色ないくらいになっている。これは、国交省が河川整備に併せて、瀬づくりをしてくれたことが反映されている。</li> <li>・現在の物部川は、意識してアユの生息環境を作っていかなければならない状況で、さらに堰による遡上阻害が続いている。</li> <li>・5月下旬～6月上旬のアユのサイズと6月下旬のアユのサイズを比較すると、アユが大きくなっていないことが分かる。これはアユが大きくなっていないのではなく、大きいアユが濁水による影響を受けやすいことということ。</li> <li>・梅雨明けまではできるだけ濁水が少なくなる。梅雨明け後は濁水にならないよう十分な水量が保たれること。この2つの条件に左右されることが分かってきた。</li> </ul>
<p>幹事</p>	<p><b>【その他意見】</b></p> <p>○風力発電の計画について、事業者がリスクのことを考えていない。物部川は他の河川と比べて、現状でも環境負荷が大きく、さらに人間の利益のために自然を開</p>

幹事	<p>発することには根源的な危険があると感じている。漁協や地元が労力をかけて、反対するのは筋が違う。何のために今日のような協議会をやっているのか、認識を聞かせていただきたい。濁水を何とかしたいということで、農家の皆さんにも頭を下げてお願いしている中で、開発も含めて濁水が続くことになれば、漁協の存続に関わる。経過も含めて真剣に考えていただきたい。</p> <p>●環境影響評価技術審査会を開き、委員等の意見も踏まえて、厳しい知事意見を提出しているところ。地元の思いは十分承知している。</p>
----	--